



**E B A**

UNIVERSITY CONSORTIUM FOR  
EVIDENCE BASED APPROACH  
TO EMERGING ISSUES IN ASIA

2016-2017

# WHAT IS EBA? EBAとは

EBA コンソーシアムは、「アジアの新出課題解決に向けたエビデンスベースドアプローチ (EBA) 大学コンソーシアム」の略称です。エビデンスベースドアプローチとは、本コンソーシアムが提案する、フィールド分析と、根拠 (エビデンス) に基づいた問題発見・分析・解決手法で、特に、近年注目されるビッグデータの活用 (データの取得、解析、可視化) に重点を置いています。エビデンスベースドアプローチは、根拠に基づいた医療 (エビデンスベースドメディスン) と呼ばれる、幅広い分野における医療研究成果の蓄積と、臨床的な専門知識を融合させた医療の実現方法を基にデザインされています。

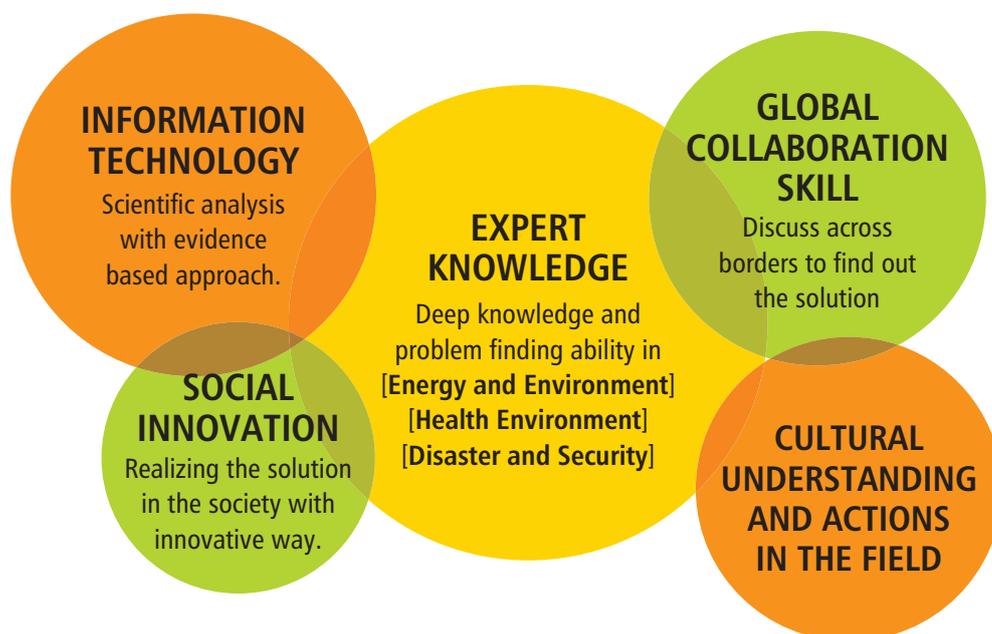
情報化社会の現在において、企業、自治体、大学などから多くのオープンデータが提供され利用可能となった時、こうしたデータを収集し自由自在に活用できるエビデンスベースドアプローチを身につけた人材は必要不可欠な存在となるでしょう。EBA コンソーシアムでは、エビデンスベースドアプローチによる問題発見と解決能力を持った人材育成を ASEAN 地域の主要大学のコラボレーションにより実現します。

コンソーシアムの参加大学は、共同でカリキュラムを設計し、各国・各大学の持つ特色を活かした科目を自大学だけでなく、他のコンソーシアム参加大学の学生にも提供しています。これは、他国の学生と日常的に交流可能なデジタルコミュニケーション基盤による遠隔授業やワークショップなどのオンラインでの活動と、ASEAN 地域や日本で実施されるフィールドワークや企業へのインターンシップといったオフラインでの活動により提供されています。EBA コンソーシアムでは、これらの活動を通しエビデンスベースドアプローチに基づいた教育とアジア各国の人的交流をおこない、ASEAN 地域における新出課題に対応する人材を育成します。

## 大学連携 (参加大学:2016年11月現在)

- (日本)  
慶應義塾大学
- (フィリピン)  
UNIVERSITY OF THE PHILIPPINES  
DILIMAN
- (マレーシア)  
UNIVERSITY OF SCIENCE, MALAYSIA  
UNIVERSITY OF MALAYA
- (タイ)  
CHULALONGKORN UNIVERSITY
- (インドネシア)  
INSTITUTE OF TECHNOLOGY,  
BANDUNG  
BRAWIJAYA UNIVERSITY
- (ベトナム)  
HANOI UNIVERSITY  
OF SCIENCE AND TECHNOLOGY
- (ミャンマー)  
UNIVERSITY OF COMPUTER STUDIES,  
YANGON

※本事業は文部科学省「大学の世界展開力強化事業」の支援により実施されています (H24 ~)





プログラム

# EBA PROGRAM

EBA コンソーシアムは、「環境・エネルギー」、「健康・公衆衛生」、「防災・セキュリティ」の3分野を主なエリアとし、各分野において学際的な実力を有する専門人材を育成します。

EBA プログラムとは、この人材育成を実現するためにEBA コンソーシアムの参加大学と共同でデザインされるカリキュラムで、「EBA 共通科目群」、「実践科目群」、「専門科目群」から構成されています。

EBA コンソーシアム参加大学が各大学の特色を活かした科目を相互に提供し合うだけでなく、地域の産業・政府・企業との連携によりフィールドワーク科目やインターンシップ科目が提供されることで、ASEAN 地域におけるニーズが反映された、その必要とされる人材育成が継続的におこなわれることを目指しています。

## EBA 共通科目群

全分野に共通した、レジリエンス・イノベーション・サステナビリティを重視した問題発見・分析・解決能力を身につけることを目的としています。科学的分析能力、情報技術、ガバナンス、社会イノベーションを柱とした科目から構成されています。

- ナレッジスキル
- ガバナンス
- ソーシャルイノベーション
- 先端 IT

## 実践科目群

短期・長期のフィールドワーク科目や、ASEAN 地域の言語や文化を扱うサポート科目が含まれており、自国だけでなく ASEAN 地域全体で多国籍の学生との交流経験や、各国の文化的背景や言語といった知識を身につけたグローバルな実践力を養成します。また、インターンシップ科目を通し、ギャップタームや4学期制を活かした各種インターンシップへの参加を通して ASEAN 地域内でのキャリアパス形成を支援します。

- インターンシップ
- フィールドワーク (短期・長期)
- ワークショップ

## 専門科目群

「環境・エネルギー」、「健康・公衆衛生」、「防災・セキュリティ」といった分野における専門知識構築と、エビデンスベースドアプローチを実践した研究指導をおこない、問題発見・分析・解決を実践します。

- 環境・エネルギー
- 健康・公衆衛生
- 防災・セキュリティ



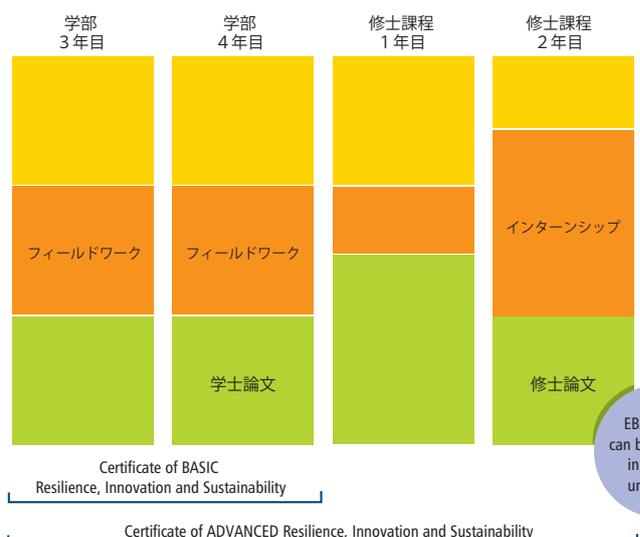
## 修了証 (学部&大学院) EBA CERTIFICATES

EBA プログラムにおける科目履修時に、学生は各大学における単位や学位の取得だけでなく、EBA コンソーシアムが発行する、「コンポーネントサーティフィケート」と「プログラムサーティフィケート」を取得することができます。

コンポーネントサーティフィケートは、EBA プログラム内の科目を履修して単位取得に相当する成果を残した際に科目毎に授与されるサーティフィケートです。

プログラムサーティフィケートには、学部レベルの「BASIC Certificate for Resilience, Innovation and Sustainability」と、大学院修士レベルの「ADVANCED Certificate for Resilience, Innovation and Sustainability」の2種類があり、それぞれ所定のコンポーネントサーティフィケートを獲得することで、卒業もしくは修了時にEBA コンソーシアムから各学生に授与されます。

現在EBAでは、サーティフィケートの授与を通して、学生の学習履歴や能力をEBA コンソーシアムが保証する体制が構築されており、今後はEBAサーティフィケートを基にした単位認定によるダブルディグリー制度の構築や、BASICサーティフィケート取得後に他大学への留学をASEAN 全域において実現し、質の高い教育プログラムの実現を目指します。



EBA Courses can be continued in overseas universities

■ EBA 共通科目   
 ■ 実践科目   
 ■ 専門科目



コース (科目)  
**EBA COURSES**

EBA プログラムは、各参加大学がエビデンスベースドアプローチに基づいた教育カリキュラムの設計をおこなっています。データサイエンス科目等、母国語での学習が望ましい科目は各大学における既設科目を活用しつつ、各国各大学の特色を活かした科目は英語で開講され、コンソーシアムメンバー大学間でビデオアーカイブやテレビ会議をもちいた遠隔授業で共有しています。

2015/2016 年度には、以下の科目群が提供され、また一部科目は Open Educational Resource としてインターネット上に共有され、いつでも、どこからでもアクセス可能

になっています。また、2014 年度から実践科目として開講している「日本語 (会話入門)」は、ASEAN 地域から日本へフィールドワークやインターンシップのために来日する学生が、挨拶やお礼といった簡単なコミュニケーションのきっかけを作ったり、食事の宗教上の制約を相手に伝える方法など、現地活動を有意義におこなうために必要な会話を中心に学習しています。

今後は、ASEAN 地域を訪れる学生向けに各国語の科目開設や、インターンシップにおいて必要となる会社内でのコミュニケーションを対象とする語学科目の提供も予定しています。

### コースリスト 2015/2016 (慶應義塾大学からの提供科目)

科目	コース名	カテゴリ	大学名/講師
共通科目	Management of Emerging Business	ソーシャルイノベーション	慶應義塾大学/國領二郎、梅嶋真樹
共通科目	Internet Measurement and Data Analysis	先端 IT	慶應義塾大学/長健二郎
共通科目	EBA Workshop	EBA Basics	慶應義塾大学/大川恵子
共通科目	Asia Workshop	総合政策	慶應義塾大学/梅垣理郎、ヴレタオチ
共通科目	Region and Society (Asia-Pacific)	総合政策	慶應義塾大学/神保謙
共通科目	Information Visualization	データサイエンス	慶應義塾大学/増井俊之
共通科目	Big Data Processing	情報工学	慶應義塾大学/植原啓介
専門科目	Social Security Policy	防災・セキュリティ	慶應義塾大学/大木聖子
専門科目	History of City and Living Environment	エネルギーと環境	慶應義塾大学/中島直人
実践科目	Science, Technology and Culture	カルチャー	慶應義塾大学/井上京子
実践科目	日本語 (会話入門)	カルチャー	慶應義塾大学/松本久仁子



EBA オープンセミナーは、月に1回実施される、参加大学間でEBA のプログラムに関連した議論や情報共有を目的とした、オープンでカジュアルな遠隔ミーティングです。各大学の教員や学生がビデオ会議を通して集合します。

各大学の持ち回りによってトピックが決定し、EBA に関連する教員や学生だけでなく、ゲスト講演者が参加して、EBA に関連した教育研究関連の最新情報の共有や、フィールドワーク・インターンシッププログラムの報告など様々なトピックを共有します。



### EBA オープンセミナー/スケジュール

セッション	テーマ	日程	時間
第01回	EBA について	2013年7月11日(火)	15:00-18:00 JST
第02回	水俣フィールドワーク(FW) 成果発表	2013年10月2日(水)	18:00-20:00 JST
第03回	慶應義塾大学院学理工学研究科の紹介	2013年11月6日(水)	18:00-20:00 JST
第04回	「情報科学」 入門	2013年12月4日(水)	18:00-20:00 JST
第05回	「エンタープレナーシップ教育」 入門	2014年1月8日(水)	18:00-20:00 JST
	⋮		
第21回	インドネシア・タイ・マレーシア FW 成果発表	2016年3月9日(水)	18:00-20:00 JST
第22回	IT・三陸・Independent FW 成果発表	2016年4月5日(火)	18:00-20:00 JST
第23回	2016年度夏季FW の紹介	2016年5月11日(水)	17:30-19:00 JST
第24回	水俣・マレーシア FW オリエンテーション	2016年6月29日(水)	18:00-20:00 JST
第25回	富士吉田・鶴岡 FW オリエンテーション	2016年7月20日(水)	17:00-18:30 JST
第26回	水俣・鶴岡・富士吉田・ベトナム・マレーシア FW 成果発表	2016年9月14日(水)	17:00-19:30 JST



## フィールドワーク EBA FIELDWORK

フィールドワーク科目は、実践科目に位置づけられており、学生は約 10 日間、日本や ASEAN 地域に多国籍な学生が集合し、共に学びます。慶應義塾大学は自治体等の協力を得て「水俣」「三陸」「富士吉田」「鶴岡」で各地域の特徴ある国内フィールドワークを実施しています。また、企業と共催でエネルギー管理に関するフィールドワークも開始しました。ASEAN 協定校と共催する海外フィールドワークは、これまでにフィリピン・マレーシア・タイ・インドネシア・ベトナムで多分野にわたり実施され、2016 年度にはミャンマーを含む 6 カ国での実施を予定しています。全てのフィールドワークは、EBA コンソーシアム参加大学からの多国籍な参加者が混在し共に学ぶ場であるとともに、フィールドワークにおけるデータ収集や分析、可視化などエビデンスベースドアプローチの手法や現地の言語や文化について学ぶワークショップが提供されています。



### 日本・水俣

(環境・エネルギー) (健康・公衆衛生)

主催：慶應義塾大学 (担当：植原啓介)

水俣フィールドワークは、水俣病の原因と解決に向けてのこれまでの歴史について、熊本県水俣市における関連施設の見学、自治体担当者や地元住民との交流を通して学びます。また、再生可能エネルギーやリサイクルを核と

する水俣市が取り組む地域振興についても学習します。ASEAN 地域における同種の環境問題の解決やその後の地域復興について議論をおこないます。



### 日本・富士吉田 (環境・エネルギー)

主催：慶應義塾大学 (担当：土光智子)

富士吉田フィールドワークでは、山梨県富士吉田市において、野生動植物の生息状況やバイオポテンシャルの測定を、カメラトラップの

設置とデータの解析、樹木の生育状況のサンプリング調査などを通して測定、分析、可視化をおこないます。

### 日本・三陸 (防災・セキュリティ)

主催：慶應義塾大学 (担当：大木聖子)

三陸フィールドワークでは、2011 年の東日本大震災における被害地域、特に津波被害を受けた三陸地域を視察し、津波被害から得られる教訓を学ぶとともに参加者の出身国においても教訓を共有することを目的とします。



### フィリピン・マニラ・イトゴン地区

(環境・公衆衛生)

主催：フィリピン大学ディリマン校

(担当：Dr. Augustus Resurreccion)

フィリピンフィールドワークでは、フィリピンのマニラおよびイトゴン地区に 10 日間滞在し、廃棄物処理問題とその解決方法・鉱山清掃の技術・金や銅をシアン化物や水銀を使用せずに精製する技術について現地視察を交えながら学びます。



EBA 座談会

# EBA ROUND-TABLE TALK

2016年11月某日、EBA フィールドワーク参加学生6名が集まり、フィールドワーク体験を語り合う座談会を行いました。

司会：大川恵子 (EBA 担当教員)・明石枝里子 (EBAリサーチアシスタント)

## —EBA フィールドワークを知ったきっかけは？

澤 塾生ホームページで知りました。それから、少し前にEBA フィールドワークに参加された同じ学部の大川さんから色々教えてもらいました。

司会 (大川) そうだったんですね。大川さんは、どうして澤さんにフィールドワークをお勧めされたのですか？

大川 私は塾生ホームページでフィリピンフィールドワークの募集を見つけて、応募しました。テーマは「フィリピンの環境問題について、持続可能な開発を考える」ということで、現地ではマニラ近郊にあるゴミ処理場や鉱山を見学し、採掘された鉱石を(フィリピンの主要産物である)銅や金に精錬する過程を調査し、それが近隣の川にどのような影響を与えているか、水質調査等から得たデータを基に、自分たちで課題を考え、それらの解決方法を考察するといった学習内容でした。

私は文学部で、自分が普段勉強している分野とは全く違う内容で、しかも自分の周りにはEBA フィールドワークに参加した人もいなかったのですが、これは面白そうだと思います。

応募しました。参加してみた結果、ASEAN各国の様々なバックグラウンドを持つ学生で集まり、共に学び考え合えたことは今でも強く印象に残っていて、私のようにフィールドワークの内容と自分の専攻が異なる澤さんにも参加を勧めました。

## —EBA フィールドワークを何度か経験して

司会 (大川) 多山くんは、これまでに4回EBA フィールドワークに参加されていますが、参加するたびに何か違いを感じますか？

多山 はい。行くたびに違いを感じますね。基本的にどこに行っても、そこに住んでいる人の日常を感じられる、ということは変わらないですが、フィールドワークが行われる国や場所によって、その日常生活は全く違って、僕はそういうところにも興味があるので、参加するたびにまた他のフィールドワークにも参加したいと思います。

それから、それぞれのフィールドワーク自体の雰囲気はかなり違いますね。今回、僕が参加したベトナムフィールドワークの参加者は慶應生だけで、殆ど日本人だったので、ほぼ毎日、スケジュール通りにきっちりしたフィールドワークが行われました。その一方で、以前に僕が参加したマレーシアフィールドワークには、ASEANの大学からも多くの学生が参加していたのですが、その時は彼らだけでなく現地の大学の先生方も割とゆっくり行動され、それによりスケジュールが変更になったこともあったので、フィールドワー



多山 恒太郎  
総合政策学部 4年



西村 志織  
健康マネジメント研究科 1年



谷口 詩奈  
環境情報学部 1年



澁谷 安梨沙  
法学部 2年

クを一緒に行く仲間たちによっても、雰囲気は変わってくると思います。マレーシアフィールドワークでは、「いま自分はアジアにいる!」という感覚を強く実感しました。

**澁谷** わかります! 私たちのチームメイトの中にも、びっくりするぐらい時間を守らない方がいました(笑)。

**多山** 逆に、時間をきちんと守る自分が間違っているかのような錯覚に陥りますよね(笑)。

**—EBA フィールドワークは「サバイバル」フィールドワークとも言われていますが、そのような経験はされましたか?**

**澤** 私はこのフィールドワークで初めてアジア圏に渡航したので色々衝撃を受けましたが、特に大学の宿舎でインターネットが全く使えなかったことはサバイバルでした。

夕飯を食べて宿舎に戻っても、グループワークのための集合場所や時間等の連絡すら取り合うことができず、大変でした。何か調べ物をしたい時も使えず、かなり困りました。

**司会(大川)** 現在の日本では、毎日どこでもインターネットが使えるのが当たり前ですからね…。

ただ、私が若い頃は、友人との連絡手段は家の固定電話しかなくて、例えば友人と駅で待ち合わせの約束をしていて会えないときは、何時間も待ったり、駅の伝言板を活用

したり、家に電話をかけて確認をしたり…色々な知恵を使っていましたね。

**全員** うわー! 信じられないです(笑)。

**司会(大川)** インターネットが使えない状況だからこそ、チームメイトやフィールドワーク参加者たちと、インターネットに頼らない話し合いやコミュニケーションがとれたのではないのでしょうか?

**全員** なるほど! 確かにそうかもしれないです。

**多山** 僕は2016年2月に行われたマレーシアフィールドワークに参加した時、大学内の学生寮に宿泊したのですが、シャワーが水で、しかもチョロチョロと出るだけで、かなりサバイバルでしたね。ベッドに虫がいたり、掛け布団もなく、辛かったです。でも、このような環境で自分と同世代の学生が日々生活している現状を知ることができて、とても刺激になりました。

**司会(明石)** 今年度から宿舎は改善したので、ご安心ください!

**西村** 私はベトナムフィールドワークに参加しましたが、ベトナムのホーチミンには以前に一度、旅行で行ったことはあ



大川 聖  
文学部 2年



澤 茉莉  
文学部 2年



### 2016 年度前期に実施した EBA フィールドワーク

- フィリピンフィールドワーク (マニラ/バギオ)
- マレーシアフィールドワーク (ペナン島/ペラ州)
- ベトナムフィールドワーク (プーキャット)
- 水俣フィールドワーク (熊本県水俣市)
- 鶴岡フィールドワーク (山形県鶴岡市)
- 富士吉田フィールドワーク (山梨県富士吉田市)

り、都市のことはなんとなく観光者感覚で分かっていたつもりでしたが、フィールドワークで訪れたベトナムの地方(プーキャット)は景色も生活様式も全く違いました。なかでも特にトイレは…。個室に桶のようなものがあり、トイレトーパーがなく、どうしようかと悩みました。

**司会 (大川)** アジアに行く時、紙は必需品ですよ。

**西村** そうなんです!特に水に溶けるタイプの紙は本当に必需品です(笑)。

### —EBA フィールドワークに参加したからこそ経験できたこと・これから参加する学生へ一言

**澁谷** 私は行く前は「私の話す言葉は通じるのだろうか?」と不安でした。英語圏ではないアジアに行くことに加え、私の参加したフィールドワークでは、現地の先住民族に会うことになっていたため、どうやってコミュニケーションをとるのか、かなり心配していました。ただ実際に行ってみると、言語なしでもコミュニケーションは成り立って、子ども達と遊んだり、村の人達と交流することができて、言葉に頼らないコミュニケーションの大切さを実感しました。

ちなみに、ASEAN から集まっている学生や現地大学の先生は全員英語が非常に堪能で、それも自分にとってよい刺激になりました。

**多山** 僕は中・高・大学と、ずっと日本の学校に通っていることもあり、これまでは ASEAN の学生達と交流する機会はほぼありませんでした。なので、EBA に参加することで ASEAN 出身の仲間ができたことはすごく嬉しいです。

**司会 (大川)** ASEAN 各国に誰かしら仲間がいるというのは、素敵なことですね。

**多山** そうですね。今後もこうしたつながりを大切にしていきたいです。

**澁谷** 慶應内でも様々な学部から参加者が来ていて、なかなか行く機会のないキャンパスに在籍している人や、学部・学年の人達と出会えたことも、貴重な経験でした。

**谷口** 私には特に、参加者全員の母語ではない「英語」が公用語となっている点が興味深かったです。

私が参加したマレーシアフィールドワークでは、先住民族の住む村へ行き、村民の日常生活や慣習を調査してデータを集めたのですが、様々な国(彼女のチームは日本、フィリピン、マレーシア、ヨルダン出身者で構成)から参加している様々な背景・知識を持つ(法、経済、観光やコンピュータサイエンス学部)学生と共に活動するには、みんなで協力して、また頑張って英語を話さなければならなかったため、大変なこともありましたが、そのような環境に自身を置けた



ことはとても有意義だったので、ぜひ語学が苦手な方にもお勧めしたいプログラムです。

**西村** 現地の人々と生活を共にでき、旅行では決して味わうことができない、貴重な経験ができました。

フィールドワーク中に知り合った現地の方とは、SNSを使って今でもコミュニケーションを取り合っていて、フィールドワークで出会った人々が、今では自分の人生の一部になっています。

**澤** 今回初めてフィールドワークに参加してみて、その面白さを実感しました。机の上だけで何かを学ぼうとするのではなく、その現実、現場を自分で見て感じる事がいかに大切か理解できるからです。

私が参加したマレーシアフィールドワークでは、先住民の子ども達の学習環境を調査したのですが、本を沢山持っている家庭と全く持っていない家庭があること、家に勉強するスペースすらない子どもがいることを目の当たりにし、その現状に驚きました。グループワークでは、子ども達がどうすれば自主的に学習できるのか、調査を通じて得られたデータを基に、チームメイトと話し合っ、大勢の前で発表したのですが、自分にとって大変有意義な経験でした。

現地では提案というかたちで終わってしまったのですが、引き続き、こうしたテーマに取り組んでいきたい、この分野について理解を深めていきたい、と考えるようになりました。

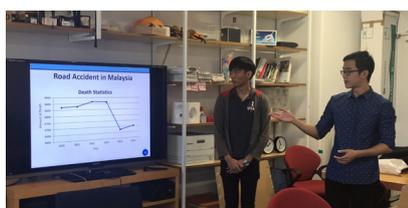
**大川** 私はフィリピンの広大な土地に、想像していたよりもはるかに大きなゴミの山（ゴミ処理場）があるのと、その山の間近で普通に生活する人々がいる状況を見て、人々の生活とインフラ整備をどうバランスをとっていくべきなのか、考えさせられました。この気持ちや匂い、空気感は、おそらくEBAフィールドワークに参加しなければ経験できなかったことだと思います。

### EBA フィールドワークの様子（上部写真）

- 1: マレーシア（ペナン島）でのグループワーク
- 2: マレーシア（クランタン州）での伝統衣装「Batik」制作体験
- 3: フィリピン（パヤタス）にあるゴミ処理場



EBAの「ビジネス・フィールドワーク」は、企業での即戦力になりうる人材を選考を通して獲得し、さらにそのスキルを磨くものです。慶應義塾大学と提携しているアジアのトップ大学において、選考（面接、アプリケーション開発スキル（プログラミングスキルの確認）、ビジネスコンテスト）を通過した学生は、現地でのフィールドワークに入る前に、オンラインでテーマ別のライティング課題（例：〇〇会社のビジネスがインドネシアに受け入れられるには？）や、対面での専門家による講義（エネルギーマネジメント、IoT、ビッグデータ分析）を受講し、最先端の知識を習得します。また、リアルなビジネス現場でのケーススタディや、各分野の専門家と徹底的にディスカッションすることを通して、最終日はテーマに沿った課題解決策（ビジネスアイデアや、アプリケーション設計）を発表します。



### ビジネス・フィールドワーク事例①

テーマ：エネルギーマネジメント

2016年1月、アジアのトップ大学と提携する授業を通して選ばれた学生（エンジニアリング専攻）が、HEMS (ECHONET Lite) 認証支援センターと、パナソニック株式会社のショ

ールームを訪れました。学生たちは、株式会社NTTデータのシニアマネージャーに対して、HEMSに関するタイ市場向けビジネスプランを提案。訪日後の日本語講義はたった2日間であったにもかかわらず、日本語を交えて発表しました。



### ビジネス・フィールドワーク事例②

テーマ：データ分析・エネルギーマネジメント

2016年10月、学生8名が提携先大学の推薦によって選ばれ、また特定のテーマを与えられて課題に取り組んだのち、来日しました。学生達は講義・ワークショップを受講し、自分たちのビジネスプランをオンラインと対面の両形式で発表しました。

また学生は東芝スマートコミュニティセンター、未来科学館、及びショースペース、三菱電機株式会社「大船スマートハウス」を訪問し、専門家との議論を通して、IoT・エネルギーマネジメントに関するビジネスプランに磨きをかけました。

### フィールドワーク報告

テーマ：ビッグデータ分析の設計

2015年7月、アプリ開発コンテストで優勝した学生が、株式会社NTTデータと慶應義塾大学が共催した講義（日本語・エネルギーマネジメント）ならびにワークショップ（日本文化・スマートコミュニティクラウド・Twitter社の分析ケーススタディ）を受講しました。

最終日には、Twitter社の障害検出システムやユーザーレポートを用いたデータの視覚化によるビジネスアイデアを提案しました。



## 企業・学生の声 VOICES

### 企業側担当者の声

株式会社 NTT データ 技術開発本部  
サービスイノベーションセンター部長 (2015/07)

「素晴らしいプレゼンテーションだった。このグループの学生は、この限られた時間のなかで、多くの情報を集め、ビジネスプランだけでなく実際のアプリケーション作製までやってのけた」

人事本部 採用グループ 担当部長

「お会いした学生の皆さんは、構想力、論理的展開力、コミュニケーション力、語学力など、さすがASEAN各国のトップ大学からの選りすぐりの学生たちという印象を受けました。特に、頭が柔らかく、学びや成長に意欲的で、且つ、主体性や自責の意志があり、これからの伸び代の大きさを感じました」

村上 隆史 エコーネットコンソーシアム 技術委員長 (2016/01)

「このフィールドワークは、実際のビジネスを経験できる素晴らしい機会だ。彼らはハイレベルな質問を多く、非常に興味深いプレゼンテーションをしてくれた」

### 学生の声

ビジネス・フィールドワーク参加者

「ワークショップや講義は、魅力的な内容が簡潔にまとめられていた。企業訪問は、最新のかつ革新的な技術について知ることができ、来日前と比べて各段に視野を広げる機会となった。

特に、エネルギーマネジメントにおける IOT の利用やデータ分析方法、その可視化についての講義は、非常に学びが多く私たちが直面しているエネルギー問題に対する有効な解決策の1つであることは確かだと感じた」



EBA コンソーシアムでは、企業と共同でインターンシッププログラムを提供することで、ASEAN 地域において活躍し、即戦力となりうる人材のキャリア形成支援もおこなっています。

EBA のインターンシッププログラムの特徴は、受け入れ先企業と大学が一丸となって学生の選抜から受入までを実施する点にあります。これまでに、ヤマハ(株)や(株)ウェザーニューズ、(株)NTT データ等の企業と共同でインターンシップを実施しており、ASEAN 地域のパートナー大学で学ぶ学生が来日するインターンプログラムが実施されています。



受け入れ先となる企業は、EBA コンソーシアムと共同でプログラムを企画することで、授業内で実施されるビジネスプランコンテストや EBA オープンセミナー等の機会を通じて ASEAN 地域の主要大学から優秀かつ受け入れ先企業と相性のよい学生を獲得できます。また、EBA コンソーシアムの提供する語学や文化といった実践的科目を事前学習に組み込むことで、インターンシップをより円滑に実施できる体制を構築することができます。

本インターンシッププログラムでは、企業内の本質的な課題に取り組むことにより、学生の能力を多角的に評価できます。遠隔インターンシップで行うプロジェクトは、各企業のビジネスと直結した研究であることが求められます。そのようなプロジェクトの中で、学生が持つ能力を多角的に評価できます。

学生は、他国の企業でのインターンシップ体験を通して、ASEAN 地域で活躍できる人材としてのキャリア形成をするだけでなく、現地の EBA コンソーシアム参加大学でのワークショップ参加などを通して、企業だけではなく大学での体験も通じて訪問先の国民性や宗教や文化を体験可能です。また、ASEAN 地域から日本企業の実施するインターンシッププログラムに参加・来日した学生の中には、卒業後に日本企業へ就職する学生もでています。今後は、ASEAN 地域でのインターンシップも計画中です。



## 企業側インターンシップ指導者の声

株式会社ウェザーニューズ システム開発グループリーダー  
インターンシップで学生の指導係を担当 (2013年～)

「遠隔会議システムを使用したプレゼンテーション発表では、学生たちのもつハングリー精神や高い技術や表現力に驚かされます」

株式会社 NTT データ 常務執行役員 技術革新統括本部長  
(2014/03)

「日本人以外の受け入れは今回が初めてだった。とても優秀ですばらしい学生たちだった。このインターンシップを通して企業の認知度を高めていきたい」

日本電気株式会社 執行役員 電極事業関係担当 (2014/08)

「ローカルマーケットに関するビジネスプランはとても魅力的です。ぜひ今後も考え続けてほしいと思いますし、企業の海外展開を支えるいちサービスになるでしょう」

日本電気株式会社 スマートエネルギーBU グローバル事業推進室  
インターンシップで学生の指導係を担当 (2015/11-12)

「このインターンシップは、日本の競争的な環境下で自分の才能を活かしたいと願う学生と、そういった魅力的な人材に出会うことにコストを惜しまない日本企業を正しくマッチングさせるプログラムだ」

## 日本で就職を決めた学生の声

1. Angela Puspitasari エンジニアリング専攻 (2014/02)

「EBAの遠隔インターンシップと日本語講義は、日本で正社員として働くというめったにない機会に挑戦するにあたり、技術的な知識の向上や言語理解を深めるよい準備期間になりました」

2. Billy Novanta Yudistira エンジニアリング専攻 (2014/02)

「インターンシップのあと、社員として楽しんで仕事をしています。新規アプリの開発など挑戦的な仕事が多くあり、また支えてくれる上司や、フレンドリーな同僚がいるからです」

3. Zelly Sidi Zamzami マーケティング専攻 (2015/02)

「EBA インターンシップは、私自身を大きく成長させるだけでなく、企業の成長戦略にもマッチしている。私の出身地であるインドネシアは特に」

4. Naldo Sancho Liman エンジニアリング専攻 (2015/07)

「日本に住んで仕事をすることは小さい頃からの夢で、このインターンシップはその夢を叶える機会を与えてくれました」

# アジアの新出課題解決に向けたエビデンスベースドアプローチ大学コンソーシアム

日本

慶應義塾大学

フィリピン

UNIVERSITY OF THE PHILIPPINES DILIMAN

マレーシア

UNIVERSITY OF SCIENCE, MALAYSIA

UNIVERSITY OF MALAYA

タイ

CHULALONGKORN UNIVERSITY

インドネシア

INSTITUTE OF TECHNOLOGY, BANDUNG

BRAWIJAYA UNIVERSITY

ベトナム

HANOI UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY

ミャンマー

UNIVERSITY OF COMPUTER STUDIES, YANGON



## お問い合わせ

慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学事担当  
神奈川県藤沢市遠藤 5322

TEL: 0466-49-3406

e-mail: eba-ra-group@keio.jp